

国の垣根を越えた友情

北京第二外国語学院学生代表

見学日時：2017年12月4日（月）12:00-13:30

見学場所：日比谷松本楼

見学概要

私たち訪日団一行は12月4日正午に日比谷松本楼に到着した。日比谷公園は東京都の中心部にあり、周囲には皇居や日本の各政府機関が立ち並ぶ。松本楼はその日比谷公園にある3階建ての建物である。私たちはそこで美味しい料理を楽しんだ後、小坂文乃女史による、彼女の曾祖父である梅屋庄吉氏と孫文氏の当時のお話に耳を傾け、意気投合した両氏による「国の垣根を越えた友情」について理解を深めた。



なぜですか？

問：松本楼に展示されているこのピアノにまつわる話を知っていますか？

答：このピアノは梅屋庄吉氏が自分の娘のために買ったものである。音楽好きな宋慶齡女史は、日本滞在期間中梅屋邸に身を寄せ、よくこのピアノを弾いていた。その後松本楼の三代目社長小坂哲瑯氏はこのピアノを松本楼内に展示したのである。



問：孫文氏と梅屋庄吉氏そして松本楼の間にはどのような物語があるのか？

答：孫文氏と梅屋庄吉氏は香港で初めて出会い、互いに革命を目指す二人の若者はすぐに意気投合した。しかし孫文氏の革命は頓挫し、清朝政府に追われていた彼は日本に亡命し梅屋邸に身を寄せた。日比谷公園が完成の際に、小坂梅吉氏は公園内に3階建ての建物を建て、松本楼を名づけた。そして孫文氏は日本滞在期間中に梅屋庄吉氏と何

度も松本楼を訪れた。松本楼は孫文氏と梅屋庄吉氏の友情を見守った証人といえる。

感想

今回の見学では、日比谷公園の美しい風景そして美味しい料理を楽しんだ以外に、孫文氏と梅屋庄吉氏との「国の垣根を越えた友情」について深く知ることができた。

孫文氏と梅屋庄吉氏は香港で知り合った。当時梅屋庄吉氏は写真館を営しながらも、アジア各国の革命事業を支援したいと願っていた。そして志を同じくする二人の若者は知り合っただけでなく、意気投合し、孫文氏は梅屋庄吉氏に対して清朝政府を倒すという願いを伝え、梅屋庄吉氏は財でその革命を支援することを孫文氏に約束した。こうして二人の「革命の志士」による友情が始まったのである。

梅屋庄吉氏は日本で最初に「映画ビジネス」の恩恵を受けた人物で、とても裕福であった。彼は幼いころから冒険精神に富んでいた他、アジア全体を助けたいという思いを持っていた。彼は中国の人々が迫害を受けているのを目にし、義憤を感じ、その後自分の全財産を使い孫文氏の革命事業を手助けした。これについて小坂文乃女史は、「曾祖父は全財産を孫文氏に提供したため、私たちには何も残らなかった。」と冗談っぽく述べていた。それでも孫文氏の革命事業は順風満帆であったわけではなく、途中で頓挫し日本へ亡命し梅屋庄吉氏のもとに身を寄せていた時期もあった。「孫中山」という名前は、その日本での亡命時期に使っていた名前である。

私たちが感服するのは、梅屋庄吉氏の冒険精神とその心の広さである。梅屋氏は自国の視点から世界を見るのではなく、アジア全体を救うという信念を持っていた。彼は私欲を捨て、全力で孫文氏の中国における革命を支えた。孫文氏にとって、梅屋庄吉氏と出会えたことはその生涯の中で最も幸運なことの一つであったと言える。松本楼には梅屋庄吉氏そして孫文氏の「国の垣根を越えた友情」を示す物品が保存されている。しかしこれは二人の友情というだけでなく、当時の中国と日本との友情ということもできる。現在日中関係が悪化を続ける最大の理由について、私は両国が互いに相手を理解しそして受け入れることができているとしないと思う。両国の人々は梅屋庄吉氏を見倣い、彼の広い心を学ぶべきである。「将来、社会のために自らの力を捧げる」、こうした言葉は現在では頻りに目にするが、真にそれを行動に移している人はとても少なく、覚悟が足りていないという問題も存在する。私たちは遠くを見据え、身の回りの事だけでなく、梅屋庄吉氏のようにアジア全体ひいては世界全体に目を向け、世界のために貢献していかなければならない。



孫文氏と梅屋庄吉氏による「国の垣根を越えた友情」について知ると同時に、私たちもこれを自身への啓発とし、より広い心と大きな理想を持つことが必要である。そして中国のため、また日中関係の改善のため、さらにはこの世界のために考え、自身の責任感を高め、有用な人材とならなければならない。